

- 1 派遣期日 令和4年10月9日(日)
- 2 派遣先 オンライン研修(ZOOM)
講師 車 重徳氏(発達心理サポートセンター 心理士・カウンセラー)
- 3 研修内容 「WISC-IV 理解セミナー 初級(WISC-IV検査とは・・・)」

(1) WISC-IV検査とは、どのような検査か

WISC-IVへの改訂にあたっては、認知発達、知能アセスメントおよび認知理論に関する現代の研究成果に基づき、WISC-IIIを一新し、他に類を見ない検査として登場した。換算表示される統計値で最も重要なものは、5つの合成得点、全検査IQ(FSIQ)と4つの指標得点：言語理解指標(VCI)、知覚推理指標(PRI)、ワーキングメモリー指標(WMI)、処理速度指標(PSI)である。これら5つの合成得点はいかなる所見報告においても必須のものである。WISC-IVは、15の下位検査で構成されるが、5つの合成得点(FSIQと4つの指標得点)を求めるために通常実施されるのは、10の基本検査のみである。ただし、実用上または臨床上的理由で、補助検査を代替して実施する場合がある。心理検査は、十分な専門的研修を積んだ有資格者によって実施されなければならない。

児童生徒の得意なところと苦手なところを調べ、苦手なところをトレーニングで伸ばしていき、苦手なところを得意なところでカバーしていくための検査であり、苦手なところをピンポイントで探ることができる。例えば、不登校は「①授業についていけない②友達とのトラブルがある③教師との相性が良くない」などの理由が挙げられる。その中の②友達とのトラブルがあるという理由では、ミスコミュニケーションまたは場の空気や友達の気持ちを推察できないなどの課題がある。その上で要素を分解すると、コミュニケーションにはどのような能力が必要になってくるのかを考えなければならないことが分かる。それらをWISC-IVの検査結果に当てはめると、相手の発した言葉を聞き取ることに課題があり、聴覚の短期記憶(WMI)の箇所が著しく低くなっている。

検査を受けた児童生徒の特性を科学的、客観的に正確に明らかにし、より良い生活に向けての必要な指導や援助の在り方を考える情報を得ることが重要であり、それは、受検者にとっての自己実現に役に立つことというのが最終目標となる。単に診断名を付けることになったり、単なる措置として利用され、十分な援助につながらないということになったりしないよう留意し、アセスメントが受検者の自己実現に役に立つことを念頭に自らの責任を果たさなければならない。

(2) 全検査IQ(FSIQ)の解釈

知能の複雑な能力について測定を試みる多くの知能検査、認知検査に共通しており、個人の様々な行動の予測変数として高い信頼性をもつ。この解釈で大切なのは、下位検査や指標得点間のばらつきが小さいときには、FSIQが全体的能力を示す正確かつ有効な指標として利用される確率が高くなるということである。逆に、指標得点間や指標得点とFSIQ間に大きな得点差がある場合には、FSIQのみで認知能力を代表する数値として見なしてはならない。

(3) 言語理解指標(VCI)の解釈・・・類似、単語、理解、知識

VICは、推理、理解、概念化に関する言語能力を測定する下位検査から構成されている。言語的な情報や自分自身がもつ言語的な知識を状況に合わせて応用できる力である。「普通は○○だ。」ということや、難しい言語を使っては理解できないことなどがあり、抽象的な言語指示が分からなかったり、指示代名詞が分からなかったりする。「言葉を言葉で理解できるか」についての指標である。子どもに共通のもの、あるいは共通の概念をもつ2つの言語を口頭で示し、それらのものや概念がどのように類似しているかを考えさせる検査である。絵の課題では、子どもに絵を提示してその名称を答えさせ、語の課題では、単語を読み上げてその意味を答えさせたり、子どもに日常的な問題の解決や社会的なルールなどについての理解に関する一連の質問をして、それを口頭で答えさせたりする検査である。

(4) 知覚推理指標(PRI)の解釈・・・積木模様、絵の概念、行列推理

PRI とは、知覚推理と知覚統合の下位検査から構成されている。PRI によって推測するため、「積木模様」に並んで、「行列推理」「絵の概念」という流動性推理を主要な推測対象とする。視覚的な情報を取り込み、各部分を相互に関連付け、全体として意味のあるものへとまとめ上げる能力であり、順番をどのように組み合わせていくか、話し言葉を起承転結に並び替えて話をするができるかななども含まれる。子どもに2～3段からなる複数の絵を提示し、それぞれの段から共通の特徴のある絵を1つずつ選ばせる検査（絵の概念）や、子どもに一部が空欄になっている図版を見せて、その下の5つの選択肢から空欄に当てはまるものを選ばせる検査（行列）である。また、子どもに絵を見せ、その絵の中で欠けている重要な部分を指差し言葉で答えさせる検査（絵の完成）である。

（5）ワーキングメモリー指標（WMI）の解釈・・・理解

WMI は、注意、集中、ワーキングメモリーを測定する下位検査からなる。ワーキングメモリーは、「情報の一時的な貯蔵庫であり情報処理に参与するメカニズム」と説明され、それは、「心のメモ用紙」とも呼ばれる。注意を持続させて聴覚的な情報を正確に取り込み、記憶する能力である。子どもに決められた数字（数系列）を読んで聞かせ、それと同じ順番で（順唱）あるいは、逆の順番で（逆唱）その数字を言わせたり、子どもに算数の問題を口頭で提示し、暗算で答えさせたりする検査である。

（6）処理速度指標（PSI）の解釈・・・知識

PSI は、認知処理および描写処理の速度を測定する下位検査から構成される。「符号」「記号探し」「絵の抹消」で測定するこの検査は、視覚的短期記憶、注意、視覚－運動協応の影響を受ける。子どもに幾何学図形、または数字と対になっている簡単な記号を書き写させ、子どもは、見本を手掛かりに問題の幾何学図形の中、または数字の下にそれぞれに対応する記号を書く検査（符号）である。子どもに左側の刺激記号が右側の記号グループの中にあるかどうかを判断させ、「ある」または「ない」に○を付けさせる検査（記号探し）や今回増えた検査（絵の抹消）では、子どもに不規則に配置した、あるいは規則的に配置した様々な絵の中から動物の絵を探して線を引かせる。

4 感想

「WISC-IV」は、本校でも児童生徒の支援のために活用している検査の一つである。私は、まだ検査を取ることができる資格はもっていないが、WISC-IVがどのような検査を実施しているか、なぜWISC-IV検査が必要なのか、また、WISC-IVをどのように学校では活用するのかについて研修することにより、知能指数の測定だけが目的ではなく、生活場面での支援計画や教育場面での指導計画を考える上で、大変役に立つ情報源となることが分かった。WISC-IVを受けた子どもの困難を少しでも緩和し、一人一人の適応を支援するためには、教育、医療、福祉など、さまざまな領域の専門家による支援や配慮が必要である。WISC-IVは、子どもたちに必要な支援や配慮とは何かを知るために活用することができ、（このことを「ニーズの把握」と呼ぶ）大切なことである。特に、学齢期の子どもの場合、学校における教育支援ニーズの把握におけるWISC-IVの役割は大きいため、発達障害のある子どもの教育支援ニーズ把握に必要となることも理解した。

この検査では、検査を受けた子どもの中での得意な部分と不得意な部分が分かり、これらを明らかにすることによって「どのような場面で集中しやすいのだろうか」「どのような伝え方をしたら、理解しやすいのであろうか」という事を教師は考えていかなければならないことをこの研修で学んだ。

今回は、WISC-IV検査の理解研修-基礎編の受講となったが、今後は、中級編や検査結果の読み取りについての研修を受講し、検査結果の読み取りの方法や活用法についての研修を深め、将来的にはWISC-IVの検査を取れる資格の取得を目指し、特別支援教育の専門性をより高めていきたいと考えている。